

A satellite map of Yokohama City, Japan, showing the city's urban area and surrounding water bodies. The map is overlaid with a light blue gradient.

平成24年度 横須賀市国民保護協議会 資料

平成25年1月30日(水)
横須賀市災害対策本部室

○ これまでの国民保護関連事業の 取組みについて

■ Jアラート(全国瞬時警報システム)の 全国一斉自動放送訓練

- 平成24年9月12日(水)実施

■ 国民保護訓練

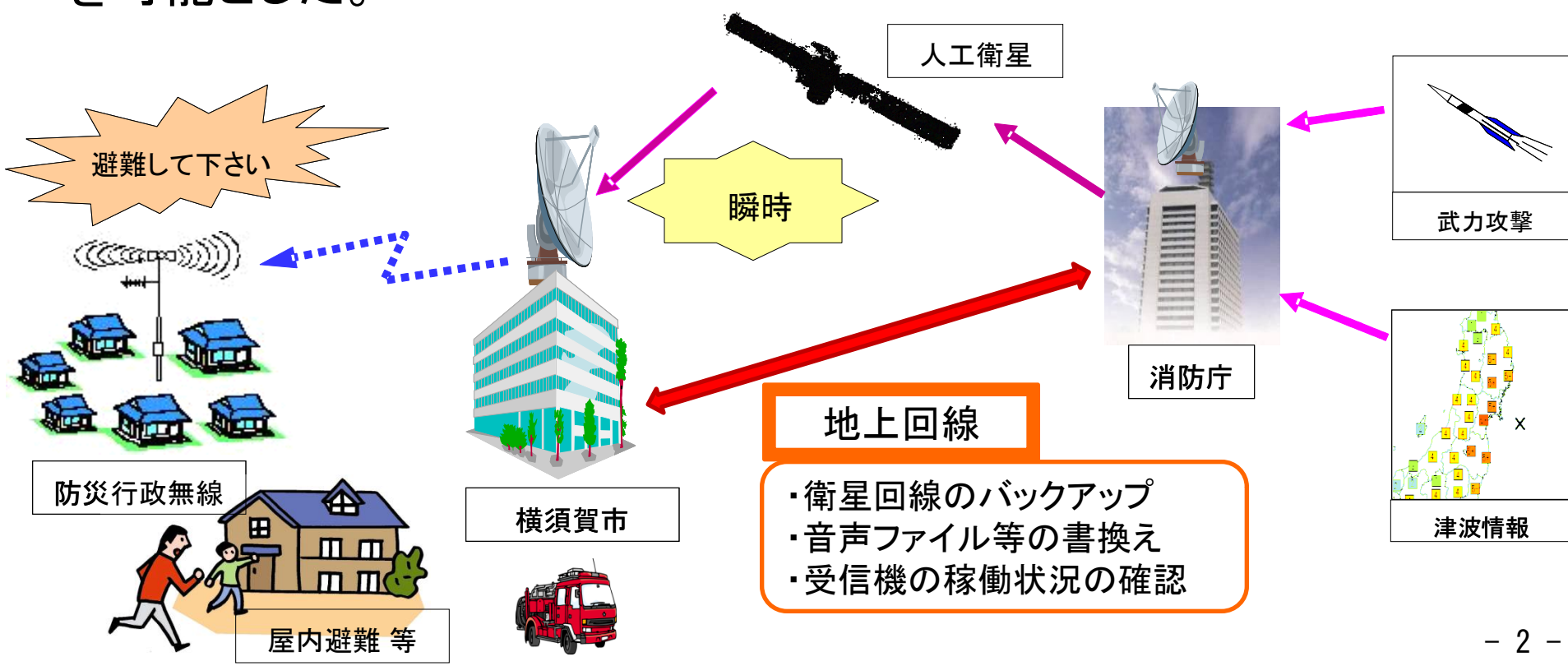
- 平成24年3月8日(木)実施(昨年度分)

- 平成25年2月2日(土)開催(予定)

○ 全国瞬時警報システム（Jアラート）

津波警報、弾道ミサイル発射情報など対処に時間的な余裕のない事態に関する緊急情報を、人工衛星を用いて送信し、防災行政無線を自動起動することにより、住民へ瞬時に伝達する仕組み。

システムの高度化によって地上回線を接続し、状況に応じた放送を可能とした。



○ 全国瞬時警報システム(Jアラート) の全国一斉自動放送訓練 ①

〔実施日〕

- 平成24年9月12日(水) 午前10時・10時30分

〔訓練内容〕

- 事前音声書換方式による放送
- 即時音声合成方式による放送

○ 全国瞬時警報システム(Jアラート) の全国一斉自動放送訓練 ②

〔事前音声書換方式〕

- ・内閣官房において想定される事態に応じて作成した伝達内容(音声ファイル)を各市町村の受信機に事前に送信して登録しておき、当該事態が発生した場合に、内閣官房から起動指示のための信号を送信し、市町村防災行政無線から放送する仕組み。

○ 全国瞬時警報システム(Jアラート) の全国一斉自動放送訓練 ③

〔即時音声合成方式〕

- 内閣官房において事態に応じて作成した伝達内容(文字データ)を含んだファイルを各市町村の受信機に送信し、各受信機において音声在即座に合成し、市町村防災行政無線から放送する仕組み

○ 全国瞬時警報システム(Jアラート) の全国一斉自動放送訓練 ④

〔放送内容〕

＜上りチャイム音なし＞

「これは試験放送です。これは試験放送です。
これは試験放送です。こちらは防災よこすかです。」

＜下りチャイム音＞

※事前音声書換、即時音声合成とも同じ内容

○ 全国瞬時警報システム(Jアラート) の全国一斉自動放送訓練 ⑤

〔横須賀市の実施結果〕

- ・事前音声書換方式(午前10時実施)、即時音声合成方式(午前10時30分実施)ともに正常に稼働した。
- ・なお、県内では、事前音声書換方式は全ての市町村で正常に稼働したが、即時音声合成方式は、8市町で稼働しなかった。これは、起動機のプログラムミスによるものと判明した。

○ 全国瞬時警報システム（Jアラート） の全国一斉自動放送訓練 ⑥

〔市民からの反響等〕

- 放送訓練実施後、市民から約80件の問合せがあり、その内容は、「なにを言ったのかわからない」といった放送内容の確認が大半だったが、「このような試験放送など意味がない」といった苦情も一部あった。
- 原因としては、上りチャイムを鳴らさずに放送が始まったことや男性音声だったことがあげられる。

○ 国民保護訓練（図上訓練）

■ 平成24年3月8日（木）実施

- Nテロ（核兵器を用いたテロ）による全市民避難を想定

■ 平成25年2月2日（土）開催（予定）

- システムへのハッキングによる大規模停電を想定

○ 国民保護訓練（平成24年3月）①

■ 訓練目的

- 短時間に大規模避難（多人数かつ市外への避難）を実施することの問題点を抽出するとともにその問題点を関係機関と共有し、今後の検討資料とすること。
- 関係機関とともに図上訓練を実施することにより、市の国民保護対策の考え方を関係機関に広く知ってもらうこと及び相互の連携強化を図ること。

○ 国民保護訓練（平成24年3月）②

■ 参加機関（19機関70名）

- 神奈川県、神奈川県警察本部及び市内3警察署、陸・海・空自衛隊、海上保安部、防衛大学校、京浜急行電鉄、京急バス、明治大学、総務省消防庁 ほか

■ 事態想定

- 超小型原子爆弾が市内に仕掛けられ、市内に居住・滞在する者全員を市外の避難施設へ避難誘導を実施する。





訓練



横須賀市に超小型原子爆弾を仕掛けられ、政府は、野田総理を本部長とする緊急対処事態対策本部を設置
政府は、落ち着いて避難するよう呼びかけ

○ 平成24年度国民保護訓練の概要

日時：平成25年2月2日（土）12時～16時50分（予定）

場所：横須賀市職員厚生会館 1階体育ホール

訓練形式：劇場型図上訓練（状況付与型）

訓練想定：

- 南関東エリア一帯の突発的大規模停電が発生（復旧の見込みはなし）。
- 事態が進展するにつれ、システムへのテロである可能性が高くなり、その後の攻撃の恐れも予見される。

訓練監修：宮坂直史 防衛大学校国際関係学科 教授

訓練参加予定機関

① 訓練プレイヤー

横須賀市危機管理課

逗子市防災課

② 訓練評価者

総務省消防庁、神奈川県、神奈川県警察本部、陸上自衛隊第31普通科連隊、海上自衛隊横須賀地方総監部、航空自衛隊第1高射群第2高射隊、横須賀海上保安部、田浦警察署、横須賀警察署、浦賀警察署、逗子警察署、東京電力(株)、自衛隊神奈川地方協力本部横須賀地域事務所、(一財)電力中央研究所、(株)NTTドコモ、(公財)公共政策調査会、(財)日本防火・危機管理促進協会、明治大学危機管理研究センター 等

訓練目的

- (1) 突発的な大規模停電発生時の対応すべき事項の確認および業務継続計画作成における留意点を確認すること。
- (2) 2市が合同で図上訓練を実施することにより、双方の対応の違いを理解し、他市の行動から知見を得ること。
- (3) 市の大規模停電時の対策を関係機関に広く知ってもらうこと及び相互の連携強化を図ること。

訓練のポイント

①訓練評価者を関係機関へ依頼

関係機関の職員に下記のポイントについて訓練評価を依頼

- ・関係機関と本市との情報伝達方法やそのタイミング
- ・大規模停電事案およびその後の事態への対処方法
- ・横須賀市および逗子市の対応の違い など

②大規模停電事案を想定

震災時にも応用できる事案であり、また業務継続計画の作成においても停電対応は重要な要素である

③2市の危機管理課職員だけをプレーヤーとした訓練

関係機関のご協力を得て、2市危機管理担当職員のみを訓練プレーヤーとして実施。他の機関には、両市がそれぞれどのように情報を整理し、意思決定を行うかを確認・ご意見をいただく予定

訓練の流れ

ターム	時 間	プレーヤー	
第1	(発災)12:30 ~13:00	横須賀市	逗子市
第2	13:00 ~13:20	横須賀市	↓
第3	13:20 ~13:40	↓	逗子市
第4	13:40 ~14:00	横須賀市	↓
第5	14:00 ~14:20	↓	逗子市
第6	14:20 ~14:30	横須賀市	逗子市



○ 平成25年度実施予定の事業について

- ◆ 国民保護マニュアルの改訂

- ◆ 平成25年度国民保護訓練の実施

○ 国民保護マニュアルの改訂

■ 警報伝達マニュアル

- Jアラートの高度化
- エリアメールの活用 等

■ 避難誘導マニュアル

- 地域防災計画の改訂を踏まえた各対策部の役割分担の見直し
- 市内避難施設の開設要員の設定 等

○ 平成25年度国民保護訓練

■ これまでの訓練

- 平成19年度：図上訓練（Cテロ）
- 平成20年度：実動・本部・図上訓練（爆発物）
- 平成21年度：避難誘導訓練（爆発物）
- 平成22年度：劇場型図上訓練（Rテロ）
- 平成23年度：劇場型図上訓練（全市民避難）
- 平成24年度：劇場型図上訓練（大規模停電）

- 25年度は、本年度訓練を踏まえ、また関係機関の要望も取り入れながら内容を検討する